


学校・家庭・地域との連携による豊かな心と健やかな体の育成
 ～体験活動の充実をめざして～（2年次）

長門市立通小学校 PTA

<p>PTA名称</p>	<p>長門市立通小学校PTA</p>	
<p>所在地</p>	<p>山口県長門市通1211番地1</p>	
<p>学校地域の概要・組織</p>	<p>本校は、長門市青海島の東端に位置し、周りを海に囲まれる自然環境に恵まれた場所にある。児童数15名、学級数3、完全複式学級の小規模校であるが、保護者や地域の方々の多くの支援に支えられ、特色を生かした様々な体験活動を通して、地域に根ざした教育活動を展開している。</p> <p>明治7年に創立した本校は、2年後には150周年という記念すべき時期を迎える。鯨唄の継承など歴史と伝統が受け継がれてきている本校において、児童数減少と学校の存続が今後の大きな課題となっている。そのため、小学校ができる主体的・積極的な地域教育活動の推進、通小学校及び通地区のよさや特色ある取組等の情報発信、そして地域活性化や地域貢献が重要な責務となっている。</p> <p>また、地域とともにある小中一貫教育「長門みすゞ学園」において、「通・仙崎みすゞ学園（仙崎中学校区）」では、小・中連携で毎学期「あいさつこだまキャンペーン（あいさつ週間）」を行ったり、中学校区での合同学校運営協議会を行ったりして、共同で地域連携教育の充実を図っている。</p>	
<p>研究テーマ</p>	<p>昨年度は助成金をいただき、児童の体験活動を充実させながら、学校・家庭・地域との連携による豊かな心と健やかな体の育成を図ることができた。課題としては、更なる地域人材の開発や活用、学校や地域情報の発信を積極的にしながら、教育活動の充実に取り組んでいくことがあげられた。そこで今年度もテーマを『学校・家庭・地域との連携による豊かな心と健やかな体の育成 ～体験活動の充実をめざして～（2年次）』と設定し、学校運営協議会、PTAが繋がり合い、地域をさらに活性化しながら地域と共にある学校づくりの充実を図りたいと考えた。</p>	

成果と課題

【成 果】

○日々感染症の状況を把握しながら、地域の実情にあった教育活動の実施を考えた。今年も、感染拡大につながりそうな内容は中止や縮小をし、それに代わる内容を考えようと、前向きなアイデアが数多く出された。保護者がPTA活動により積極的にに関わり、子どもたちのためにできることを取り組んでいきたいという強い姿勢が、今まで以上に感じられるようになったのも大きな成果の一つである。

○昨年実施できなかった「海の子遠泳大会」は、今年は多くの関係者の御支援をいただきながら無事実施することができた。事前の海岸清掃では地域の方々が参加してくださり、大会当日は公民館、おやじの会、学校医など、多くの御支援に支えられ開催された。会議を行い、打合せや準備等連携しながら進めることで、当日は円滑な運営をすることができた。本校の伝統であるこの行事を報道関係へ連絡することで、通地区と小学校のよさを広く知ってもらえるいい機会となった。

○昨年作成した通小オリジナルTシャツの評判はよく、今年度もこのデザインを活用したオリジナルジャケットを作成することとなった。常任委員会で作成が決定すると、詳細をつめ、11月始めに完成した。年間を通して、通小Tシャツ・ジャケットを着ることで団結力・連帯感が生まれる等のよい効果が見られた。外部からもまとまり感が見られ、好感がもてるとのお気づきをいただいた。

○地域人材活用の行事である「つり集会」「いも植え、いも掘り・調理活動」においても、助成金を有効に活用できた。地域の方々が子どもたちのためにご指導くださり、保護者も一緒に参加することで、地域連携力の向上を図ると同時に、教育効果も高めていくことができた。今後もPTA活動において、地域人材の開発・活用を積極的に行い、魅力あふれるPTA活動を展開していきたい。



【課 題】

○現在も児童数・家庭数の減少は、大きな課題となっている。本校では保護者全員がPTA役員となり、児童のため、学校教育活動に多大なる御理解と御協力をいただいている。しかしながら、保護者数が減少する中、これまで通りのPTA活動の運営は難しくなっている。そのため、昨年度からPTA部会の編成も行ってきた。今後も少ない人数で負担なく運営できるPTA活動の在り方を探り、改善を図っていかなければならない。

○2年後に開校150周年を迎える現在、更に学校・地域・保護者が願いや思いを共有しながら学校教育活動、そしてPTA活動を進めていかなければならない。地域と連携・交流し、地域支援を積極的に行いながら、通小学校・通地区のよさを広く発信し、教育活動の充実を目指したい。

活動内容

1 地域の支援に支えられた遠泳大会

昨年はコロナ禍のため本校の一大イベントである遠泳大会を止む無く中止したが、今年度は感染症対策を徹底させながら実施する方向で考えていった。6月に入りPTA保体・育成部会を開き、監視船の手配、遠泳コースの確認、物品の準備、当日の運営等について協議した。また大会前の7月13日には遠泳大会前役員会を開き、各役員の役割分担を詳細に確認し、大会当日に備えた。

感染症対策をとりながら、7月18日に2年ぶりの遠泳大会が行われた。当日は天候にも恵まれ、多くの方々のご支援に支えられながら、種目ごとの遠泳がスタートした。おやじの会には、監視船の操舵・児童の伴泳、公民館には船上からの監視・写真撮影、学校医には入水直前の児童の健康確認や怪我への対応等、児童が力を出し切れるように、全力でサポートをいただいた。助成金は大会参加者全員の熱中症予防のための飴、飲料と保冷用の氷として活用した。

子どもたちは自分の力に合わせて泳ぐ距離を設定。低学年は50m、長い距離を泳ぐ高学年は1.6kmに挑戦した。初めての遠泳大会となった1・2年生も含め、全校児童15名全員が力強く完泳した。通小の特色あるこの大会を、今後も継続していくことに大きな意義を感じながら、大会を無事に終えることができた。



2 通小オリジナルジャケットの作成

昨年度、この助成金をいただき、通小オリジナルTシャツを作成した。地区の文化祭、持久走大会等の行事においてこのTシャツを着ることで強い連帯感が生まれ、活動が充実したという声を多くいただいた。

今年度もこの助成金の活用について保護者に投げかけたところ、「寒い時期でもみんなで同じものを着て、気持ちを一つにして活動したい」という声をいただき、多くの賛成意見もあった。10月5日の常任委員会で協議し、作成することが決定。デザインは昨年度のものを使用し、生地や色等内容が決定すると、購入希望数を調べ、発注した。

助成金は、児童が着用するジャケットに活用した（保護者・教職員は自己負担）。お披露目は、通小祭り（文化祭）で行われた。保護者・地域の方々に参加をいただき、低・中・高学年が趣向を凝らした体験コーナーやお店



を設営した。この際、オリジナルジャケットを着用し、児童には一体感が生まれ、気分を盛り上げて活動を進めることができた。

3 地域人材を活用した学習・行事の実施

9月30日、釣り集会が行われた。公民館と連携し、地域の方々へ参加・指導のお願いをしたところ、今年も7名の御協力をいただいた。担当者の方のご厚意で、学校へお越しいただき、事前の道具確認・準備をしていただいた。今年度は、はり、おもり、撒き餌用具、餌等の購入に助成金を活用することにした。

当日は縦割り班ごとに地域の方についていただき、えさの付け方、合わせ方、魚の外し方等、多くのご指導をいただいた。また保護者も加わり、1時間半程度、わが子と過ごす時間を楽しんでもらった。今年度は例年以上に大量で、サバ、アジ、ハコフグなど多くの釣果があった。子どもたちはバケツ一杯に魚を釣り、地域の支援と通の海の恵みに感謝しつつ、つり集会を終えることができた。

また、6月に植えたいもを11月に収穫し調理を行う「なかいも活動」も、地域の方々の支援をいただく行事の一つである。いもの植え方、掘り方、調理の仕方等、一連の活動で多くの御指導をいただいている。地域の方々には、御来校いただいた際にお礼としてペットボトルのお茶を出し、助成金を活用した。

本校は山と海の学校交流として、宇部市立厚東小学校と例年交流を行っている。この交流は学校運営協議会も連携して行っている。今年ももち米をいただき、このお米を使ったもちつきといも調理を行った。もち米を蒸し、もちをつき・こねる作業において地域の方に御指導いただきながら、保護者も一緒になって、円滑に活動を進めることができた。出来上がった焼きいもと、つきたてのおもちをおいしくいただきながら、和やかなひとときを過ごした。この活動では、もち米を蒸すための布、きな粉、醤油、プラスチックパック等に助成金を活用した。



<写真・資料>

海の子遠泳大会 7月18日(日)



浜辺の様子



保護者に励まされながら泳ぐ低学年児童

通小祭り(文化祭) 11月7日(日)



チケット販売



朝学体験コーナー

つり集会 9月30日(木)



指導者の紹介

もちつき 11月26日(木)



つきたてのおもちをまるめる作業

